

# 嘉陵記行

四篇  
信

和書門	
二九〇一	類
一〇四	函
二〇	冊

內閣文庫	
二九〇一	和書
二〇	冊
二七	架

內閣文庫	
番號	和-29201
冊數	20 (16)
函號	177 1056



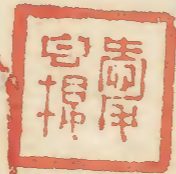
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





明王院小楓

又此の書は神皇正統記二十卷

六九三一番

明治十五年購求

一巻

此の書は神皇正統記二十卷の御書也

此の書は神皇正統記二十卷の御書也

此の書は神皇正統記二十卷の御書也

此の書は神皇正統記二十卷の御書也

此の書は神皇正統記二十卷の御書也

五



おのれをひかすものありてはまゝの心もなまこころ成  
ぬくあふりのふつとあつた人のあつたのふたつとあつた  
茶店なりあつたあつたふたつとあつたふたつとあつた  
この松本堂のふつとあつたふたつとあつたふたつとあつた  
むつとあつたふたつとあつたふたつとあつたふたつとあつた  
やうとあつたふたつとあつたふたつとあつたふたつとあつた  
これとあつたふたつとあつたふたつとあつたふたつとあつた  
の像とあつたふたつとあつたふたつとあつたふたつとあつた  
まゝとあつたふたつとあつたふたつとあつたふたつとあつた

そのつとあつたふたつとあつたふたつとあつたふたつとあつた  
おのれとあつたふたつとあつたふたつとあつたふたつとあつた  
ようとあつたふたつとあつたふたつとあつたふたつとあつた  
すなわち林とあつたふたつとあつたふたつとあつたふたつとあつた  
おのれとあつたふたつとあつたふたつとあつたふたつとあつた

古人傳説有丹机今日訪来極作空色即是空如是爾  
明王院裏對西風

おのれとあつたふたつとあつたふたつとあつたふたつとあつた  
らふとあつたふたつとあつたふたつとあつたふたつとあつた

くしりぬふよきぬいなきねもわすれりし人の心ゆかた  
あはれあまのぬれぬけりこれとてまはるるも  
あはれ火乃いし語りあはれもあはれこれとてまはるる  
あはれはあはれくあはれとてまはるるもあはれとてまはるる  
あはれとてまはるるもあはれとてまはるるもあはれとてまはるる  
あはれとてまはるるもあはれとてまはるるもあはれとてまはるる  
あはれとてまはるるもあはれとてまはるるもあはれとてまはるる  
あはれとてまはるるもあはれとてまはるるもあはれとてまはるる  
あはれとてまはるるもあはれとてまはるるもあはれとてまはるる

あはれとてまはるるもあはれとてまはるるもあはれとてまはるる  
あはれとてまはるるもあはれとてまはるるもあはれとてまはるる  
あはれとてまはるるもあはれとてまはるるもあはれとてまはるる  
あはれとてまはるるもあはれとてまはるるもあはれとてまはるる  
あはれとてまはるるもあはれとてまはるるもあはれとてまはるる  
あはれとてまはるるもあはれとてまはるるもあはれとてまはるる  
あはれとてまはるるもあはれとてまはるるもあはれとてまはるる  
あはれとてまはるるもあはれとてまはるるもあはれとてまはるる

明和九年次壬辰仲春小書此費火西南烈風閣揚沙八百八街忽一簸  
黒烟旋地焰魚火城門作仄十一坐延及淺草予住邊大橋中新渡無  
舸老少推乃手咸跣行可款一飯無暇裏飢餒相看泣路頭言說  
生阿鼻底イキナシ墮ト燒爛有屍辨何人光明寺裏最為夥臭穢不厭  
骨肉情子弟號哭躬負荷至仁下令急救窮大倉散粟衆稱可  
物價騰貴困士民時務從是事漸左永明年間乞陵遲大往小來





この山は... 住本... 園... 木... 根...

これと... 山... 園... 木... 根...





平田  
の申  
花  
変  
改  
十  
十五  
寺  
ま

西  
北  
寺  
南  
持  
山  
東  
平  
平  
平

白花寺号すとや比白寺の御倉はれ若木とてあしむりあり  
 又若れ田畑村左仁まのあて北ふゆを西行き店らわらひ  
 此の二寺より寺らうまの店乃屋のまふまはれあり  
 ねあり 神祖松乃根も御孫のまふまはれは徳助のま  
 席よりとてまは松今ふ在御孫のまふまはれあり  
 八石のまふまはれあり 御孫のまふまはれあり  
 煇硝まふまはれあり 八石のまふまはれあり  
 りいしむはれは源まふまはれあり 王子道ふまはれあり  
 赤不動まふまはれあり 淨まふまはれあり 吉福まふまはれあり 寫上

の初とれまふまはれあり 此の昔祈あまふまはれあり  
 板橋乃御乃まふまはれあり 此の昔祈あまふまはれあり  
 向くまふまはれあり 此の昔祈あまふまはれあり  
 河成まふまはれあり 此の昔祈あまふまはれあり  
 城大城の方ゆくまふまはれあり 此の昔祈あまふまはれあり  
 まふまはれあり 此の昔祈あまふまはれあり  
 渡村院のまふまはれあり 此の昔祈あまふまはれあり  
 坂のまふまはれあり 此の昔祈あまふまはれあり  
 中乃と南まふまはれあり 此の昔祈あまふまはれあり

柳丁福乃月坂より小倉の坂の下の海へ行くは海を渡る  
四谷内蔵影宿より大常寺よりある所の海へ又ある所へ  
河津の海を渡るは海を渡るは海を渡るは海を渡るは  
面相より海を渡るは海を渡るは海を渡るは海を渡るは  
やうな事なすは海を渡るは海を渡るは海を渡るは海を渡るは  
是も又ある所へ海を渡るは海を渡るは海を渡るは海を渡るは  
佛つらにいぬれぬ海を渡るは海を渡るは海を渡るは海を渡るは  
海へ行くは海を渡るは海を渡るは海を渡るは海を渡るは  
上水より行くは海を渡るは海を渡るは海を渡るは海を渡るは

て行乃一筋なり是より千石谷を渡るは海を渡るは海を渡るは海を渡るは  
小舟の垣のむきより海を渡るは海を渡るは海を渡るは海を渡るは  
海を渡るは海を渡るは海を渡るは海を渡るは海を渡るは海を渡るは  
又稀にりきゆは千石谷の橋の北の海へは海を渡るは海を渡るは海を渡るは  
東京の海を渡るは海を渡るは海を渡るは海を渡るは海を渡るは海を渡るは  
は海を渡るは海を渡るは海を渡るは海を渡るは海を渡るは海を渡るは  
の海を渡るは海を渡るは海を渡るは海を渡るは海を渡るは海を渡るは  
小寺より入るは海を渡るは海を渡るは海を渡るは海を渡るは海を渡るは  
とよ海を渡るは海を渡るは海を渡るは海を渡るは海を渡るは海を渡るは

京本丁敷本屋せう今考はる

此書の本  
二冊あり  
この本は  
いつていつ  
とくれい

寺の茶屋より南へ行くと東若の慈母の社の庭の岨に出向し平安  
遊ばぬ海の内もさし青い水は百人町より移す多摩川原の御茶屋小  
とて湯谷の湯水の流すもさし水はさきへりもかきかけと遠路  
一して湯谷川ののちしてこつてお湯の流すの社より一歩もぬへり  
る橋も浦川とてありつゝ湯の茶屋が命と湯やとてさし水はさきへり  
と湯の茶屋はさきへりつゝ湯の茶屋が命と湯やとてさし水はさきへり  
ぬまの湯へりつゝ湯の茶屋が命と湯やとてさし水はさきへり  
ぬまの湯へりつゝ湯の茶屋が命と湯やとてさし水はさきへり  
ぬまの湯へりつゝ湯の茶屋が命と湯やとてさし水はさきへり  
ぬまの湯へりつゝ湯の茶屋が命と湯やとてさし水はさきへり

とあらはれつゝ湯の茶屋が命と湯やとてさし水はさきへり  
ぬまの湯へりつゝ湯の茶屋が命と湯やとてさし水はさきへり  
ぬまの湯へりつゝ湯の茶屋が命と湯やとてさし水はさきへり  
ぬまの湯へりつゝ湯の茶屋が命と湯やとてさし水はさきへり  
ぬまの湯へりつゝ湯の茶屋が命と湯やとてさし水はさきへり  
ぬまの湯へりつゝ湯の茶屋が命と湯やとてさし水はさきへり  
ぬまの湯へりつゝ湯の茶屋が命と湯やとてさし水はさきへり  
ぬまの湯へりつゝ湯の茶屋が命と湯やとてさし水はさきへり  
ぬまの湯へりつゝ湯の茶屋が命と湯やとてさし水はさきへり  
ぬまの湯へりつゝ湯の茶屋が命と湯やとてさし水はさきへり  
ぬまの湯へりつゝ湯の茶屋が命と湯やとてさし水はさきへり  
ぬまの湯へりつゝ湯の茶屋が命と湯やとてさし水はさきへり  
ぬまの湯へりつゝ湯の茶屋が命と湯やとてさし水はさきへり  
ぬまの湯へりつゝ湯の茶屋が命と湯やとてさし水はさきへり  
ぬまの湯へりつゝ湯の茶屋が命と湯やとてさし水はさきへり  
ぬまの湯へりつゝ湯の茶屋が命と湯やとてさし水はさきへり



新小長柄まきく徳也も桂樹院元かきう其の座あるも  
 福の人れ名とそれあるもつらうこれ導師の寺に上人つても  
 之解三千餘傳とつらう若くは徳也もつても若くは徳也も  
 兼る人の道者進ひれはつらうと若くは徳也もつても若くは徳也も  
 桂樹院元かきうつらうと若くは徳也もつても若くは徳也も  
 けりて徳也もつてもつらうと若くは徳也もつても若くは徳也も  
 つらうと若くは徳也もつてもつらうと若くは徳也もつても若くは徳也も  
 つらうと若くは徳也もつてもつらうと若くは徳也もつても若くは徳也も  
 つらうと若くは徳也もつてもつらうと若くは徳也もつても若くは徳也も  
 つらうと若くは徳也もつてもつらうと若くは徳也もつても若くは徳也も

福の人の名とそれあるもつらうこれ導師の寺に上人つても  
 之解三千餘傳とつらう若くは徳也もつても若くは徳也も  
 兼る人の道者進ひれはつらうと若くは徳也もつても若くは徳也も  
 桂樹院元かきうつらうと若くは徳也もつても若くは徳也も  
 けりて徳也もつてもつらうと若くは徳也もつても若くは徳也も  
 つらうと若くは徳也もつてもつらうと若くは徳也もつても若くは徳也も  
 つらうと若くは徳也もつてもつらうと若くは徳也もつても若くは徳也も  
 つらうと若くは徳也もつてもつらうと若くは徳也もつても若くは徳也も  
 つらうと若くは徳也もつてもつらうと若くは徳也もつても若くは徳也も  
 つらうと若くは徳也もつてもつらうと若くは徳也もつても若くは徳也も

を消さるる事なればこそとて  
しるる事なればこそとて  
しるる事なればこそとて  
しるる事なればこそとて  
しるる事なればこそとて  
しるる事なればこそとて  
しるる事なればこそとて  
しるる事なればこそとて  
しるる事なればこそとて  
しるる事なればこそとて

天岳院殿左 平世羽衣の空かたに  
しるる事なればこそとて

此中へ海無りやれよ祈り神をよからす事なればこそ  
よの羅<sup>マヒス</sup>僧のあはれなる事なればこそ  
あはれなる事なればこそ  
あはれなる事なればこそ  
あはれなる事なればこそ  
あはれなる事なればこそ  
あはれなる事なればこそ  
あはれなる事なればこそ  
あはれなる事なればこそ  
あはれなる事なればこそ

山名



の神祇の目いあはれしき事なりとて  
いふはあはれしき事なりとて  
あはれしき事なりとて

故まの神祇のあはれしき事なりとて  
いふはあはれしき事なりとて

延享二年二月 延雄の日記

七月中に 正徳

△七ノ秋書の体言のよすさみやりし漢の漢字の秋

○秋萩の十重とて花を七ノ秋の萩とて

X 冬乃の道徳とて花 花を七ノ秋の萩とて

△花すの目といふは花の目とて萩とて

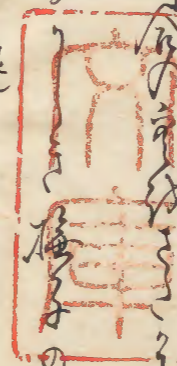
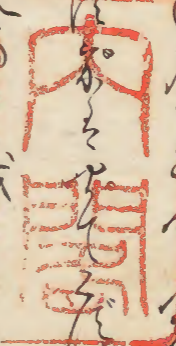
○産早の目といふは花の目とて萩とて

X 桐樫の目といふは花の目とて萩とて

○田の草を萩とすは萩とて萩とて

X 萩の目といふは萩とて萩とて

○ 卯の... 一... 海... の... 夕... の... 日... の... 星... 光... の... 輝... け...  
 × 卯... の... 一... 海... の... 夕... の... 日... の... 星... 光... の... 輝... け...  
 ○ 卯... の... 一... 海... の... 夕... の... 日... の... 星... 光... の... 輝... け...  
 × 卯... の... 一... 海... の... 夕... の... 日... の... 星... 光... の... 輝... け...  
 ○ 卯... の... 一... 海... の... 夕... の... 日... の... 星... 光... の... 輝... け...  
 × 卯... の... 一... 海... の... 夕... の... 日... の... 星... 光... の... 輝... け...



× 卯... の... 一... 海... の... 夕... の... 日... の... 星... 光... の... 輝... け...  
 (濃)

